

若者UP

検索

[www.wakamono-up.jp](http://www.wakamono-up.jp)

# 5年間のひきこもりを含む8年間の 無業生活から、夢が持てる会社へ入社。

ディースタANDARD株式会社◎海崎 拓也さん (31歳)

## 家族を助けるという名目で 自宅にひきこもる 生活を続けた

高校卒業と同時に父のドイツ赴任が決まり、僕はドイツで大学に行くための勉強をしようと考えました。ドイツ語の語学学校に通い始めて1、2年経ってから、教育システムの違いから僕はドイツの大学を受験できないことがわかりました。ちょうどそのころ、父の赴任が終わり、家族は日本への帰国を決めていました。僕は迷いましたが、家族と一緒に帰国することにしました。

帰国したのち、母が難病で倒れ、亡くなりました。だから、僕が家事を引き受けることにしたんです。「ごはんを作ったり、掃除したりする以外は、ゲームをしたり、テレビを見たりする生活でした。家族以外の人に「今、何やってるの?」と聞かれるのが恐怖でしたから、だんだんと家からは出なくなりました。

30歳になる直前に、とにかく何かしなくてはならないと思った僕は、自宅付近で募集し

ていたアルバイトに片々端から応募しました。でも、一つも受かりませんでした。シヨックから、ひどいうつ状態になり、僕は何カ月も寝たきり状態になってしまいました。あるとき兄が見かねて「コネクシヨンスかわさきに一緒に行ってみよう」と誘ってくれました。そこから急展開です。

若者UPプロジェクトに参加し、その流れでマイクロソフト社のテレワーク週間と連動した別海町留学に参加させてもらったのも、僕の気持ちに勢いをつけました。マイクロソフト社の人々などさまざまな人に助けられるなかで、「失敗を恐れず、いろいろなことをやってみよう」と考えられるようになりました。

## 何もやっていなかった つらい時代には もう戻りたくない

支援プログラムも、インターンも、そして入社してからも、「やめよう」と思ったことは一度もありません。落ち込んだこともあつ

たけれど、「明日、行くのをやめよう」とは思わなかった。それは、あのつらい時期を繰り返したくないという気持ちが大きいです。きっと「働く」ために必要なのは、確固たる決意でも義務感でもなく、「ちょっとやってみようかな」という軽い気持ちなんです。ひきこもっていると、「やりたい」という気持ち

がなくなっていくます。「やりたいけれどできない」と思うことが多くなつて、感覚が麻痺していくんでしょね。そのうち、「できない自分が恥ずかしい」から、自分の気持ちにふたをして見ないようにしてしまつた。

僕は、かつての僕のような人たちに「人生をあきらめることをもうあきらめてしまおう」と言いたい。「働く」ことは、思い描いていたほどつらくもないしそんなに大変でもない。楽しいと思えることだってたくさんあります。助けを求めれば、きっと多くの人が支援してくれるはずですから、「ちょっとやってみようかな」という気持ちを、形にしてあげて欲しいと思います。



▲海崎さんの仕事風景。車で移動しながら、携帯電話などの電波障害を起こしているエンドユーザー宅を訪問。原因を探って修復する仕事を行っている。

高校卒業後、父の転勤に伴ってドイツへ。ドイツの大学受験を目指していましたが、システムの違いから受験できず、失意のまま帰国。帰国後、母の闘病生活を支え、母の死を看取った海崎さんは、自宅にひきこもりながらも家族を支えるために家事を行いました。

30歳を前にうつ状態になったしまった海崎さんを心配した兄からのすすめでコネクシヨンスかわさき(旧かわさきサボステ)へ。その後、海崎さんはディースタANDARD株式会社でインターンを行い、2015年10月、同社へ入社しました。

